




第5学年 図画工作科学習指導案

1 単元名

ピタピタゴラゴラ

2 単元計画

時間	1	2～3 本時（3時間目）	4
ねらい	であい	ひろがり	ふりかえり
学習内容	○参考作品のビー玉が転がる様子を見て、その仕組みや作品づくりに興味をもつ。	○基本となるコースをグループで話し合いながら考え、必要な道具を集め、ビー玉の転がり方を考えながらつくる。 ○必要な場合には紙を折ったり貼ったりして様々な形のコースをつくり、組み合わせて構成する。	○自分のグループのコースと、他のグループのコースのよさを認め合う。
ICT	・参考作品の紹介。 	 タブレットPC 指導者1台	

3 「小中一貫教育」を通して、具体化する視点

(1) 指導内容の「系統性」

現代の子どもたちは、自分の手で材料を使って、創意工夫しながら遊ぶものをつくって遊ぶ機会が少なくなってきたといわれる。遊ぶものを与えられる生活になれてしまった子どもたちに、少しく遊ぶものを作る楽しさを味わってほしいと考えこの単元を設定した。第4学年では紙粘土を教材として使い、絵具を練りこみ、紙粘土の特性のどんな形にでも変形することを活かし、自分達の手でお気に入りの物を作ってきた。第5学年では本単元の前時にあたるコロコロガーレを行った。一人一人がタワー型のビー玉コースを作り、どんなコースにすればビー玉が面白く転がるかを試行錯誤しながら考え手作りの遊び道具作りを経験してきた。第6学年では色の着いた砂を利用し、さまざまな色の砂を混ぜ合わせると、普段の水彩絵の具とは違った面白い表現ができることを経験し、混ぜて遊ぶことから発想力を伸ばしていく。中学部では遊び心を活かして題材として、モダンテクニックという偶然できた色や形を使って表現する技法を学んでいく。主なものをしてパチック、フロッタージュ、コラージュ、スパッターリングなどがある。

(2) 指導法の「連続性」

- ① 言われたことを忠実に行うことが得意な児童は多いが、遊び心を活かして発想力をもとに自分で何かを作りだすことができる児童はそこまで多くはない。第4学年で紙粘土を使った教材の時には好きな物を作るにも何を作るかで戸惑う児童が多かったので、作りやすい見本を事前に作り、作りかたのレシピーを提示した。その作り方を基に、少しずつ発想を膨らまる一因となった。
- ② 物を作るのに発想できない児童には、友達の活動や作品を見ることで自分の作品作りのヒントになることがあるので、活動の途中に面白いアイデアの児童の作品を紹介し、児童の活動の一助にする。
- ③ 作品作りが失敗するという不安感を払拭するために、最初から作り直したいという児童のために余分に教材を準備する。
- ④ 発想に行き詰った時のために、ヒントとなる作品や物、絵を準備したヒントコーナーを設け、困った時にはいつでもヒントが得られるようにしておく。

4 本時（4時間扱いの3時間目）

（1）ICT 活用

学習場面	課題設定	個の思考	思考の共有	振り返り
学習活動	見通しをもつ		確かめる	よさを共有する
タブレット				

（2）展 開

学習活動	・指導の留意点・配慮事項 ★評価
<p>○学習内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を知り、見通しをもつ。 ・前時で作ったコースを動画で見て、今日作ってみたいコースのイメージを膨らませる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> ビー玉が転がる仕組みを使った楽しい転がり方や仕組みを考えよう </div>	
<p>○様々な転がる仕組みを考え、グループで相談しながら協力してコース作りに取り組む。</p> <p>○他のグループのコース作りを参考にして、自分達のグループにも活かしてコースづくりを進める。</p> <p>○学習のまとめ それぞれのグループのコースを動画で発表する。</p> <p>○かたづけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画視聴をしたり、他のグループの作品を紹介したりすることでコース作りのイメージを膨らませる。 ・ 指導者のタブレット PC で面白いコースを作った児童の作品を撮り、全体で紹介をして共有する。 ★グループで協力してビー玉が転がる仕組みを使った楽しい転がり方や仕組みを考えている。【活動観察、作品】 ・ グループで協力して使った道具を元の場所に片付けるようにする。